



フランスの自治体関係者の会議に参加 ～日本の自治体による取り組みを紹介～

(一財)自治体国際化協会パリ事務所 所長補佐 堀川 なお (札幌市派遣)

第2回フランス語圏自治体幹部職員会議に参加

9月29日から10月2日にかけて、フランス中部にあるリモージュ市で開催された「第2回フランス語圏自治体幹部職員会議 (2^{èmes} Rencontres des dirigeants territoriaux francophones)」に参加してきました。

この会議は、全仏事務総長組合 (SNDGCT) と全国地方公務員センター (CNFPT) の共催で、フランス語圏の自治体関係者を主な対象に、自治体間の交流や情報交換などを目的として毎年開催されています。

会議のテーマが「スポーツと地域」であったことから、クリアパリ事務所が東京2020オリンピック・パラリンピック競技大会についての発表を依頼され、今回特別に参加する運びとなりました。また、クリアパリ事務所に加え、2026年にユースオリンピック開催予定のセネガル・ダカール市よりスポーツ・青少年担当部長も参加していました。本会議前日にリモージュ市庁舎で実施されたレセプションでは、コロナ禍で国際交流が困難を極める中、フランス国外から参加したクリアパリ事務所とダカール市に対し、主催者側から歓迎と感謝の意が述べられました。

クリアパリ事務所は、「スポーツイベントが地方自治体に与える影響」をテーマとしたセッションにて、ホス

トタウンにおける自治体交流について発表し、横浜市や静岡市の例を交えながら、ホストタウンの仕組みや選手団と地元住民との交流内容などについて説明しました。2024年大会の開催国であるフランスでは「Terre de Jeux 2024」というホストタウンに似た取り組みが行われており、ホストタウンに対する関心も高いようで、発表後には参加者から多くの質問が寄せられました。

また、会議と併せて、リモージュ市内にあるスポーツ施設の視察にも参加しました。施設の管理責任者などの案内のもと、実際に競技エリアに入ったり、競技用備品に触れるなどしつつ、各施設を見学しました。大規模スポーツ施設が完成するまでの苦勞、施設利用者を確保し続けるための工夫、特定のスポーツががんのリハビリに



クリアパリ事務所長による発表の様子



会場となったリモージュ市庁舎



市内スポーツ施設にて説明を受ける様子



活用されていることなど、多くの貴重なお話を伺うことができました。

SNDGCT 年次総会に参加

10月14・15日に、メッス市で開催された全仏事務総長組合（SNDGCT）年次総会会議に参加してきました。SNDGCTは、フランスの地方自治体の事務総長、事務次長およびそれらの経験者を会員とする大規模な職業団体です。

SNDGCT年次総会は、クリアパリ事務所にとってもフランスの自治体関係者とのつながりを深めたり、新たなネットワークを構築するための重要な機会です。毎年のSNDGCT年次総会を通じて築かれたネットワークは、フランスの自治体に関する最新情報などの収集のほか、クリアによる「海外自治体幹部交流協力セミナー（自治体の幹部職員などを互いの国へ招き、政策課題に関する意見交換などを行う交流事業）」の実施など、パリ事務所だけでなくクリアが行っているさまざまな事業において、大きな役割を果たしています。

SNDGCT年次総会は、全体会議と分科会とで構成されています。

各日の午前中に開催された全体会議では、新型コロナウイルス感染症の感染拡大をきっかけに大きく世界が変化しつつあることに着目し、自治体の事務総長の職務やマネジメントの在り方とその変化について発表や議論が行われました。そのほか、複数のテーマ別に開催された分科会では、参加者はそれぞれ関心のあるテーマに関する会に自由に出席することができます。クリアパリ事務所は、「女性職員の責任あるポストへの任用」「職員採用と人材確保」「地方自治体による外交」をそれぞれテーマとした3つの分科会に参加しました。



会場となった METZ CONGRÈS Robert Schuman

今回の年次総会では、クリアパリ事務所開設30周年を記念する特別セッションも実施されました。これは、昨年の総会において実施が予定されていたものの、コロナ禍の影響により延期となっていたものです。

特別セッションの前半では、クリアパリ事務所より「日本の地方自治体の概要および新型コロナウイルス感染症への対応について」というテーマで発表を行いました。発表では、日本の地方自治体に関する基礎的な情報と併せて、新型コロナウイルス感染症対策における都道府県と市町村の役割などを説明しました。発表後には、終了時間の間際まで多くの質問が寄せられました。コロナ禍における地方自治体の具体的な対応に関するものから、知事・市長と副知事・副市長の権限の違いなど地方自治体の内部構造に関するものまで、質問の内容は多岐にわたっていました。

また、特別セッションの後半では、過去の海外自治体幹部交流セミナー参加者による発表も行われました。発表の中では、セミナー参加時の経験が今でも役立っていることや、日本滞在中の出会いが帰国後も続いたことなどの貴重な体験談が語られました。

今年のSNDGCT年次総会は、クリアパリ事務所の職員として、会議などの場を通じて自治体間の交流を深めることの重要性と必要性を改めて強く認識する良い機会となりました。



全体会議の様子



海外自治体幹部交流セミナー参加者による発表